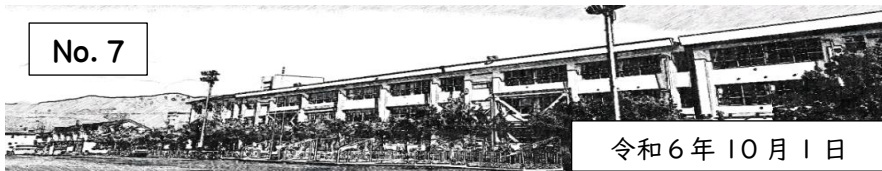


# 学校便り

No. 7

甲府市立城南中学校



令和6年10月1日

## 全国学力・学習状況調査

今年度の全国学力・学習状況調査は4月18日(木)に実施されました。学校としてのこの調査の目的は、次の2点になります。①生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育指導の充実や生徒の学習状況の改善に役立てる。②教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

8月に出された調査結果を受けて、本校でも生徒質問紙・国語・数学の調査結果を分析・考察してまとめましたのでお知らせします。併せて、分析結果を今後の指導に役立てるようにします。

なお、個人の結果は既に各自に配付してあります。自分の得意分野と不得意分野を確認して、今後の学習に生かしましょう。



## 生徒質問紙

- 自分自身のこと、友人や先生との関係
  - 生活習慣に関しては、全国・県と大きな差はない。
  - 携帯やスマホ、PCの使い方について、家庭内での約束を守る傾向にある生徒の割合が高い。
  - 自分にはよいところがある、将来の夢や目標を持っているとの質問に対し、どちらも全国・県と同等かそれ以上の結果である。
  - 友達関係に満足している生徒の割合が高い。
  - 先生がよいところを認めてくれると感じる生徒の割合は全国・県と同等かそれ以上の結果である。
  - 毎日同じくらいの時刻に起きているかとの質問に対し、否定的な回答をした生徒の割合が若干高い。
  - 学校に行くのは楽しい、自分と違う意見について考えるのは楽しいとの質問に対する回答は、どちらも全国・県と比較するとやや低い。

- 困りごとや不安をいつでも先生など大人に相談できると感じる生徒の割合は低い。



### 2 学習・授業の状況

- 1、2年生のときの授業や学習におけるICTの活用に関するすべての質問で、肯定的な回答をした生徒の割合が高い。
- 1、2年生のときの授業で、自分で考え、取り組

む傾向は、全国・県と比較するとやや低い。

- 1、2年生のときの授業は、自分にあった教え方、教材、時間であったと回答した生徒の割合が低い。
- 平日の家庭学習時間は比較的多く確保している傾向にあるが、休日の家庭学習時間が確保されていない生徒の割合も高い。
- 家庭でのICTの活用に関しては、学習に利用する生徒、ゲームや動画視聴に利用する生徒とも、高い割合を示している。
- 自分で学び方を考え工夫し、学習内容を見直して次に繋げようとしている生徒の割合は低い。
- 学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりする生徒の割合は低い。
- お互いに協力して課題解決に取り組む生徒の割合はやや低い。
- 話し合い活動で、考えを深めたり、新たな考えに気づいたりする生徒の割合はやや低い。
- 総合の時間に、情報を集め整理し、発表する活動に取り組む生徒の割合は低い。
- 先生がわかるまで教えてくれると感じている生徒の割合はやや低い。
- 理科の学習に関するすべての質問に対しては、肯定的な回答の割合が高い。
- 1、2年生のときの英語の授業では、英語で発表する活動(スピーチやプレゼン)、考えや気持ちを英語で書く活動が行われたと回答した生徒の割合は高いが、英語を聞いたり読んだりして概要や要点をとらえる活動や考えや気持ちを英語で伝え合う活動は肯定的な回答がやや低い。



## 国語

1 本校の現状

【全体】

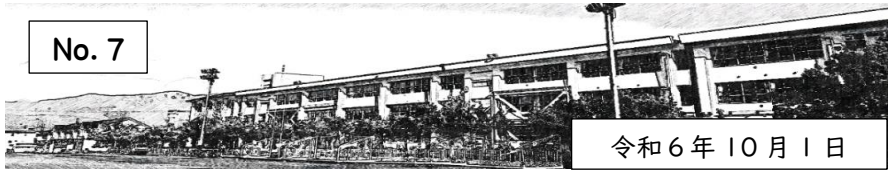
- 平均正答率は山梨県、全国と比べて同等であると言える。また、中央値や標準偏差も県や全国と同じか、ほとんど変わらない。
- 全体として無解答率は県や全国と大きな差はない。
- 着目する内容を決めて本文を要約する問題等は無回答率がやや上回っているものがある。



# 学校便り

甲府市立城南中学校

No. 7



令和6年10月1日

- ・県や全国と比べて記述式での無回答率が高い。特に、短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える問題では無回答率が高い。
- ・生徒質問紙と併せると、国語に対する興味関心は高く、将来役に立つ大切な学習であると捉えている。授業中にさまざまな思考を巡らせ、内容をよく理解している割合が高い。

## 【領域・観点別】

- ・書くこと、読むことは、県や全国と比べて同じか、やや上回っている。しかし、文章と図の関係から内容を解釈する問題の正答率は低めである。
- ・話すこと・聞くことは、県や全国と比べて少し下回っている。自分の考えや誰の発言と結びつかなどを具体的に書けない生徒が多い。
- ・知識及び技能において、県や全国と比べ正答率がやや下回る設問が多い。特に言葉の特徴や使い方に関する事項で、少し下回っている。

## 【課題】

- ・話すこと・聞くことの正答率が低い。
  - ・知識及び技能の正答率、特に言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率が低い。
  - ・記述式での無回答率が高めである。
- ## 2 教科における主な改善点
- ・漢字や表現技法等、履修した知識的事項について授業の中でも折に触れて繰り返し確認する。
  - ・履修漢字を日常的に書くなどの指導を大切にする。
  - ・「自分の考え」や「その根拠となる事柄」を明確にすることを意識させる。

## 数学

### 1 本校の現状

#### 【全体】

- ・平均正答率は県、全国と比べて少し低いが、同等とも言え、中央値は県や全国と同じである。標準偏差もほぼ同じだが、若干のバラツキが見られる。
- ・県、全国で無回答率が高い設問に対しては、本校でも同じ傾向が見られる。
- ・与えられたデータから最頻値を読み取る、グラフから必要な情報を読み取る設問の正答率が高い。



- ・正三角形と正四面体を絡めた数量関係の設問の正答率は県・全国と同程度である。
- ・生徒質問紙と併せると、数学に対する興味関心は低く、将来役に立つと捉えている割合も少ない。また、授業中にわからなければ試行錯誤することなく、諦めてしまう傾向が見られる。

## 【領域・観点別】

- ・領域別にみると数と式、図形、関数は県と大きな差はないが、データの活用の平均正答率が低い。

## 【課題】

- ・確率を求める設問の正答率が全国と比べて低い。
- ・複数のデータから四分位範囲を比較する設問の正答率が全国と比べて少し低い。
- ・データの傾向を捉え、判断理由を数学的に説明する設問の正答率が低く、無回答率も高い。
- ・関数について、式・グラフから問題解決の方法を説明する設問の正答率が低い。

## 2 教科における主な改善点

- ・基礎的・基本的な計算技能のさらなる習熟を図るため、繰り返し練習する機会を設ける。
- ・資料やグラフから情報を読み取り、自分の考えを記述・説明する機会を増やし、繰り返し指導する。
- ・日常の事象や身の回りにあるものを題材として、その中にある数量関係を図や表を用いて導き出せるよう繰り返し指導する。

## 今後に向けて

- ・将来の夢や目標を持っている、自分にはよいところがあると思っているなど、自己肯定感が高いので、長所を伸ばす指導を心掛けて、目標実現のための取組を支える。
- ・国語、数学ともに、基礎基本を大切にしながら、苦手領域のフォローアップを図る。
- ・目標を決め、計画を立てて取り組ませることで、学習時間を確保し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・トライ&エラーの機会やじっくり考えて取り組む機会を設け、指示待ち学習からの脱却を図る。
- ・これまで以上に個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を促進させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげる。

